



川の流域面積って何なの

川が水を集める地域の面積

流域というのは、川に流れこむ雨水が集まる地域のことをいいます。集水地域ともいいます。

山や平地に雨や雪が降ると、その水は、やがて川に流れこんでいきます。ふつう、流域は、真中付近が低い盆地のような形をしていて、下流に向かってだんだんと高度を下げっていきます。こうして、流域のあちこちから集まった川の水は、やがて、海にそそぎます。

この流域の面積がどれくらいあるかを求めたものが、流域面積です。

流域面積を測る方法はいろいろあります。いずれも、地形図を使って計算します。たとえば、地形図の上に方眼をかけて、作られるます目の数を数えたり、求積器を使って、地形図の上で測定したりします。

こうして求められた流域面積を見ると、世界最大の流域面積をもつのはアマゾン川で、705万平方キロメートルもあります。南アメリカ大陸の面積が1780万平方キロメートルですから、南アメリカ大陸の約40パーセントがアマゾン川の流域面積にあたります。これは、日本の面積の20倍近くに当たります。

日本最大の流域面積

日本の最も長い川は、信濃川(367キロメートル)ですが、流域面積が最大の川は、利根川で、1万6840平方キロメートルです。アマゾン川の流域面積と比べると、そのちがいにodorokimasuね。(監修・保岡 孝之)

